

平成29年度第2回神奈川県公私立高等学校協議会  
議 事 録

- 1 日 時 平成29年8月2日(水)  
15時00分～16時30分
- 2 場 所 県庁新庁舎 9階 議会第5会議室
- 3 出席委員等 田沼 光明 高木 茂 藤野 利夫 竹内 博之  
込山 英弥 西村 英純 森 有作 佐藤 昌俊  
八尋 有造 岡野 親 飯村 浩章

(敬称略)

## 座長（八尋委員）

定刻となりましたので「平成29年度第2回神奈川県公私立高等学校協議会」を開催します。私は今年度からこの協議会の委員に就任をいたしました、私学振興課長の八尋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

また、昨日から公私合同の説明会も始まりまして、公私協調した事業が実施されているところでございます。本日は定員協議ということでこの協議会を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

まず、開催前に、神奈川県公私立高等学校協議会の設置及び運営に関する要項第4条に基づきまして、座長の互選をお願いしたいと思います。

従来、私学振興課長が座長を務めさせていただいておりますが、本年度も引き続き、座長を務めさせていただくことでよろしいでしょうか。

全委員 異議なし。

## 座長（八尋委員）

それでは、座長を務めさせていただきたいと思っております。

なお、本協議会は、原則公開としております。本日、取材の方は申出がないということでございますが、傍聴者につきましては、既に入室をさせていただいておりますので、御承知おきください。

次に、お手元にお配りしております次第に基づきまして議事を進めさせていただきますが、その前に今年度新たに委員になられた方々の御紹介をさせていただきたいと思っております。資料1を御覧ください、委員名簿を添付してございます。まず、新たに委員になられた方、神奈川県私立中学高等学校協会・竹内博之委員でございます。

## 竹内委員

どうぞよろしくお願いいたします。

## 座長（八尋委員）

続きまして、川崎市教育委員会事務局学校教育部指導課長・森有作委員でございます。

## 森委員

森でございます、よろしくお願いいたします。

## 座長（八尋委員）

以上が新任の皆様でございます。

なお、本日は、大澤委員、佐藤到オブザーバー、佐藤昭オブザーバー、笹原オブザーバーの4名が欠席となっております。

続きまして、お手元の方にもお配りしてございますが、本日「かながわ定時制・通信制・高校教育を考える懇談会」から、7月27日付けで文書が提出されております。この文書につきましては要請ということで出されているものになりまして、提出されました文書の写しを配付しているところでございます。提出いただいた方から本日口頭陳述の申し入れがございましたので、これから議事に入る前に陳述の機会を設けたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

全委員 異議なし。

#### 座長（八尋委員）

それでは、文書を提出された懇談会の代表の方、恐れ入りますが、時間は3分以内でお願いしたいと思いますので、よろしくお願ひします。

#### 陳述者

こんにちは。私はかながわ定時制・通信制教育を考える懇談会の保永博行と申します。  
(資料説明)

#### 座長（八尋委員）

それでは次第に従いまして、議事を進めたいと思ひます。まず、「1 議題の平成30年度の高等学校生徒入学定員計画の策定について」でございます。

当会議では、例年、この時期に入学定員について、精力的に御協議いただいておりますが、公私間で合意を得た上で、その協議結果を公私立高等学校設置者会議に報告することが、当会議としての役割となっております。具体的な協議に入る前に、まず私から、昨年度までの定員協議の経過等について、簡単に説明させていただきたいと思ひます。

まず、平成22年度から3年間につきましては、公立中学校卒業予定者の約6割を全日制公立高校の入学定員とする基本比率により行っておりました。平成25年度の定員計画策定時に見直しを行ったところでございます。

その際、定員割り振り方式を採用するに至った経緯、あるいは、これまでの実績や、進学率の推移を踏まえた上で、公立の定員枠だけを定める方式から、公私がともに責任を果たす方式へ見直すことの必要性についての議論がなされたところでございます。

議論の結果、公立、私学がこれまでの実績、あるいは施設規模や教員の規模等を踏まえ、進学率の向上の視点のもとに総合的に判断をした上で、各々が実現を目指す定員目標を定め、その実現に向けて最大限努力すること、そのような方向で平成25年度の定員計画は決定しています。その結果といたしまして、全日制進学率も向上し、不本意入学者数も減少するなど一定の効果があつたとして、引き続き平成26年度から平成29年度までの定員計画も定員目標を設定する方式により計画を策定することで合意をいただいているところでございます。

本日は、委員の皆様にお集まりいただき開催する今年度初めての協議会となります。これまでの協議で、合意してきた様々な取組や平成29年度の入学者選抜結果などについて、次第に記載された配付資料の順に従いまして、事務局から報告いたしまして、その後、これま

での実績や昨年度の定員計画についての検証を踏まえながら、本日の協議を進めたいと考えております。

それでは、資料の説明を事務局からお願いします。

## 事務局

それでは、資料の説明をさせていただきます。（資料4～資料9－2を説明）

## 座長（八尋委員）

ありがとうございました。それでは協議に入って参りたいと思いますが、まず資料の説明があり、今年度の定員計画の検証ということで、入学者選抜の実績が報告されました。そこで今年度の定員計画の検証という意味で、昨年度の定員計画を踏まえて今年度の実績に対する評価というものを公立・私立それぞれからお願いしたいと思います。それではまず公立の方からお願いできるでしょうか。

## 岡野委員

資料で申し上げますと資料4-2や4-3にございますように、我々は公私協調して全日制進学率の向上を目指してやっていこうという中で、残念ながら昨年度に比べれば0.2%全日制進学率が減少したという結果になりました。しかし、資料4-3のこれまでの推移を見ていただくと順調に進学率が上昇してきている中で、昨年度は非常に上昇幅が大きく0.7%上がって90.9%ということで、今年は0.2%後退して90.7%ですけれども、後退したとはいえ前々年度あるいはその前の年度まで進学率が下がってしまったということではありません。高止まりの中での0.2%減少ということですので、我々としては公私協調してこの下げ幅分を含めて、また上昇に向けて一緒に考えていきたいというところがございます。

どうしてこのような結果になったのかということについては、数字が確定したばかりですので詳しい検証をしていかなければいけないと思いますが、ざっと数字を見ている中では特に通信制に進学している人の数が、少しいつもよりも実数として増え幅が大きいのではないかという印象があります。通信制の中身は私立・公立・広域通信制と色々ありますが、その中のどこに需要が集まっていたのかなど詳しいことについては分析しなければわかりません。

総括すれば全日制進学率を大きく下げたわけではないので、さらに上を目指せる余地があるのではないかと思います。

## 座長（八尋委員）

ありがとうございました。公立側の方から評価・分析がありましたが、私学側の方はいかがでしょうか。

## 田沼委員

私学側としても進学率が0.2%下がってしまったことは大変残念なことです。先ほど公立

側から話があったように昨年度は0.7%上がったということですので、今年は少し下がったとはいえ努力はかなりしたのではないかと考えています。資料4の入学者選抜実績を見るとわかるように、私立は入学者数が15,361人でございますが、合格者は51,275人を出しているということになります。この数は要するに入学をする可能性が十分にあり公立との併願がなければ私学に来た人数であり、入学者の3倍以上の合格者を出しているので私学としては努力したつもりですが、今回のような結果になってしまったことは残念に思っております。

また資料で驚いたこととして、全日制の希望者が減ったということがあります。進路希望が未定という人数も多くなっているとのことで深く精査しなければわからないことですが、全国の私学の中でも話題になっているのが広域通信制の高校です。広域通信制に進学する生徒が増えているという傾向があると思いますが、その点は新しい問題として考えていかなければならないと思っております。全日制を希望しているが定時制・通信制に行くことになるという生徒を前提に私たちは全日制進学率の向上を考えており、私はその方針について正しいと思っております。しかし、積極的に広域通信制を選ぶという傾向が最近出ているようで、通信制の意義というものを考えると、この傾向についてはよく精査をしなければならずと考えております。通信制は不登校の生徒や学習に困難がある生徒が、家で学習できるような環境を整える場であるので、積極的に通信制を選んで何かをやるというのは通信制として正しいあり方であるのかどうか、今後色々と考えていかなければならないと思っております。

#### 座長（八尋委員）

ありがとうございました。公立・私立それぞれの立場での今回の評価、特に0.2%全日制進学率が落ちてしまったということについて発言がありましたけれども、ここで三市の西村委員から今年の結果について、何か御意見等ありましたらお願いできるでしょうか。

#### 西村委員

今、お二方からお話があったとおりでと思います。公立・私立ともに全日制進学率を見ると若干私立の方が下がっておりますが、先ほど田沼委員から発言があったように最大限の努力をした上でのこのような数字だと理解しておりますので、今後においても公私協調した考え方で進めていけるのではないかと考えています。

#### 座長（八尋委員）

森委員も何かありましたらお願いします。

#### 森委員

私も同様でございますが、これまでの取組を引き続き継続していく必要があるのではないかと考えております。

#### 座長（八尋委員）

ありがとうございます。佐藤委員はどうでしょうか。

## 佐藤委員

皆さんがお話されているように、平成27年度から平成28年度に全日制進学率が0.7%上がったということは公私の努力の成果だと思います。今回数字が下がった要因分析について必要性があると思いますが、今回の全日制進学率の減少によってこれまでの方法論を含めて大きくやり方を変えるという問題ではないと思いますので、引き続き公私ともに努力を重ねていくことの必要性があると思います。

## 座長（八尋委員）

ありがとうございます。飯村オブザーバーも何かありましたらお願いします。

## 飯村オブザーバー

平成28年度の90.9%という全日制進学率の実績が大きく今年は0.2%の減少ですけれども、中学校としては減少したという印象はなく、子どもたちが希望する学校に入れているという印象がありますので、これまでの方法でやっていただけたらと思います。

その中で、定時制の昼間に通う学校の需要が増えていることは確かです。自分のペースで学べるといった理由で、昼間定時制の希望が増えているという実感はあります。

## 座長（八尋委員）

ありがとうございました。今日は資料にあるような数字が出たばかりですので分析というのは難しいと思いますけれども、0.2%の減少といってもその前に0.7%上昇していますし、かなり努力をしているという評価だったのではないかと思います。

次にそういった評価を踏まえて、平成29年度の定員計画の策定につきましては「率による定員割り振り方式」から「定員目標を設定する方式」に変更して5回目になっておりましたが、この方式について今後どうするかということも含めて意見がありましたら伺っていきたいと思います。まず、公立の岡野委員はいかがでしょうか。

## 岡野委員

皆さん揃って言われているように0.2%下がったとはいえ、悲観する数字ではないと思います。方法論としては「定員目標を設定する方式」を引き続き行っていくことが良いのではないかと考えています。

## 座長（八尋委員）

ありがとうございます。私学側はどうでしょうか。

## 田沼委員

私学側も、「定員目標を設定する方式」を続けて努力をすることが良いと考えています。

## 座長（八尋委員）

ありがとうございます。公立・私立からは引き続き「定員目標を設定する方式」を進めた

いとの意見がありました。先ほども発言をいただきましたが、三市の立場として委員から反対の意見等ありましたをお願いします。

西村委員・森委員・佐藤委員 異議なし。

#### 座長（八尋委員）

よろしいでしょうか。「定員目標を設定する方式」につきまして、引き続き続けていくことが良いのではないかという御意見がありました。

続きまして、これから平成30年度の定員計画の協議をしていくこととなりますが、その方向性としましてどのような形でこの協議を進めていくのか、その方向性についての御意見をいただきたいと思います。先ほどお話がありましたように、これまで一定の成果があったと私の方でも考えておりました、今までいただいた意見を踏まえすと平成30年度の定員計画の策定にあたりまして、平成29年度の定員計画の策定方法を継続していくということで改めて確認をしたいと思います。みなさん、いかがでしょうか。

全委員 異議なし。

#### 座長（八尋委員）

よろしいでしょうか。特に御意見がなければ平成30年度の定員計画の協議にあたって、これまでの策定方法を継続していくということにさせていただきたいと思います。

次に、具体的な入学定員計画策定の考え方ですが、昨年作成いたしました合意文書を基にしながら平成30年度の合意文書をどのような形にしていくかということについて、確認をさせていただきたいと思います。資料3を御覧ください。こちらが昨年合意いたしました平成29年度の「高等学校生徒入学定員計画」の策定についてという合意文書になりまして、こちらの文言を修正する必要があるかないか等について協議を進めていきたいと思います。

まず「1 基本的な考え方」ですが、こちらにつきましては平成24年度の協議会におきまして時間をかなりかけて丁寧な議論を進めた結果、ここに書かれている三つの視点、理念や基本精神といったものを今後も引き続き尊重していきたいということになりました。また、今後については一層その視点を達成するために更なる努力を継続していくということで、公立・私立の意見が一致しているというところでもあります。平成30年度の計画の策定に向けても、公立・私立双方がこの視点を持って進めていくということでよろしいかどうか確認をさせていただきたいと思います。それでは公立側はいかがでしょうか。

#### 岡野委員

問題ないと思います。

#### 座長（八尋委員）

ありがとうございます。私立側はどうでしょうか。

## 高木委員

かなり長い時間をかけて議論してできあがったものですから、それを尊重して引き続きやっていきたいと思えます。

## 藤野委員

基本的な考え方に書かれていることで良いと思っておりますが、大きく公私協調ということと公私間格差の是正を図るということ、ここが我々私学の立場からすると最も大きな危惧と言いますか、課題であると思っております。というのも、生徒たちは最終的には様々な条件の中で自分の進路のイメージを膨らませていくと思っておりますが、最終的に中3の秋の時点での希望調査では公立高校進学希望が多くなっており、最終的にはそれを余儀なくされる、そういう側面があると私は思っています。というのは、ごく一般的に公立高校・私立高校どちらが良いのかについて、3年前の平成26年3月に県民意識調査を行った資料を我々にはいただいておりますが、様々な経済格差といったものがなければ公立高校よりも私立高校が良いといったアンケートの結果が出ています。つまり、経済的な格差といったものがなければ私立高校を選ぶ県民の方が多いのかなと私は思っています。

平成26年3月の県民意識調査によれば学校の特色や個性という点では県立（公立）の方が良いという回答は6.0%、私立の方が良いという回答は61.9%、どちらともいえない22.8%、わからない7.1%、無回答2.2%という結果でした。もちろん、私立学校は特色のある教育を行っているので公立よりも私立に対する肯定的な意見が10倍以上あることは当然だと思えます。その他に授業の内容・学校行事・部活動・大学等への進学・就職・生徒指導・施設や設備・教員・学校の雰囲気等々、ほとんどが数倍から10倍近く、あるいは10倍以上私立の方が良いとの結果が出ています。最後に総合的に見るという項目では、県立の方が良いというのは7.8%、私立の方が良いというのは38.0%でした。平成26年の前の調査は平成18年になるのでずいぶん古い調査になりますが、その時の調査よりも私立は高い評価になっています。

私は公私協調で公立と私立が神奈川の教育を担っていくという立場なので、一方的に公立よりも私立が良いと言っているわけではありませんが、中学生たちが本当に自分の行きたい学校を選べるような、本当の意味で選択の自由が行使できるような、そういう条件をどのように整えていくのかということがこの場の大きな役割だと考えています。また、必ずしも授業料のことだけではない様々な要素の中で、中学生たちは自分の希望進路に向かって一生懸命努力しそれを実現していく、それを我々がどのようにして条件を整備していくのかということが課題であると思っております。

先ほどの検証の中で、通信制も希望が多いとか、実績として通信制の入学者が増えているといったこと、これはもしかするとそのような希望を余儀なくされている子どもたちがいるということかもしれません、今までにない傾向として注目すべきことです。それから先ほど飯村委員が話されていましたが、与えられた選択肢の中で昼間定時制を選んでいくということ、これもはっきりとした根拠があるわけではありませんが、現場の感触としては公私協調の中でそういった学校も公立の中で選択肢として準備しているということ、これは公私の定員協議の中から生まれてきたことだと思いますので、そのことも含めてここ何年か積み重ねてきた定員協議の方向性をぜひ追及したいと思えます。



### 座長（八尋委員）

ありがとうございました。「1 基本的な考え方」（1）のイの部分に公私間の格差の是正という言葉がありますけれどもこういったものも含めた視点、これは基本に継続をしていくということによろしいでしょうか。また資料3の2ページにいきますと（3）のその他のところで進学率向上のためにさらに公私で工夫していくこと、また公私の役割につきましてはここに規定しているようなそれぞれの役割について、すでに確認していることではございますけれども、ここも基本的には変わらないということによろしいでしょうか。

全委員 異議なし。

### 座長（八尋委員）

ありがとうございます。次は一番重要な部分になってくるかと思いますが、「2 定員計画の策定」でございます。（1）は平成29年度の定員計画の策定方式ですが、先ほど基本的に方式は継続していくということで確認させてもらいましたが、文言等につきましては平成30年度の定員計画の方式と変更させていただきますけれども、内容につきましては改めて確認をお願いしたいと思います。

全委員 異議なし。

### 座長（八尋委員）

よろしいでしょうか。これまでの経緯を勘案しつつ、全日制進学率が0.2%減少しているということで若干修正が必要になります。内容としては、引き続き公私各々が自らの責任において実現を目指す定員目標を設定する方式により策定していくことにさせていただきます。また、公表につきましては例年10月とさせていただいておりますので、他の部分については同様にさせていただきたいと思います。私たちの方で修正をさせていただいて、内容としては同様にさせていただくということによろしいでしょうか。

全委員 異議なし。

### 座長（八尋委員）

（2）の考え方につきまして、どこか修正が必要な点がございましたら発言をお願いしたいと思います。いかかでしょうか。この中で2ページの最後にありますけれども、公立の目標設定にあたっては、定時制における課題の解消に対応できるよう定員枠を確保するという言葉が入っておりますが、こういったところも継続ということによろしいでしょうか。また3ページに移りまして私学の目標設定にあたっての考え方としましては、私学への進学希望の実現に対応できるよう定員枠を確保するという表現がありますが、こちらもよろしいでしょうか。

全委員 異議なし。

**座長（八尋委員）**

（３）その他では４項目掲げてございます。全日制高校への進学実績の向上により一層努力する、私立高校の配置状況等を十分に考慮する、中高協会における広報・相談活動に引き続き全力を傾ける、これから長期的な生徒の減少期に入っていくということから定員計画の策定にあたっては柔軟かつ安定的な枠組みを示す、といった表現となっておりますがこちらにつきましてもよろしいでしょうか。

全委員 異議なし。

**座長（八尋委員）**

「３ 今後の総合的な対応」でございます。こちらについてはいかがでしょうか。こちらの（１）のところでは、主に県の予算の確保でありますとか制度の充実・努力といったところでございますので、これは引き続きこのような記載をさせていただこうと思います。また、私学側の記述になりますけれども、（１）の四つ目で入学時納付金の支払いを延納する措置の拡充に努めるという記載がありますが、こちらも引き続き努力していただくということでもよろしいでしょうか。

全委員 異議なし。

**座長（八尋委員）**

続いて４ページに移りまして資料でも説明がありましたが（３）ではクリエイティブスクールに関する記載がございます。こちらはいかがでしょうか。この記述については前段で説明がある中で、最後のところに志願者及び入学者の動向や実態を踏まえ、設置の目的に沿った学校となっているかを検証し、引き続き公私で協議するといった表現になってございますが、よろしいでしょうか。

全委員 異議なし。

**座長（八尋委員）**

続きまして（４）では定時制等の受け入れ対策ということでございます。定時制高校の学校規模の適正化、特に経済的な理由により全日制高校への進学が叶わずに定時制に進学せざるを得ない生徒への対応を引き続き図るということでございます。こちらにつきまして西村委員、森委員、佐藤委員もよろしいでしょうか。

**西村委員**

結構ですが定時制高校につきましては、先ほど飯村委員が話されたように昼間定時制への入学者が多いように見受けられますが、夜間定時制の入学者の数は減少しているような感覚

があります。そのようなことを踏まえて定員策定をしていかなければならないと考えています。

#### 座長（八尋委員）

ありがとうございます。最後の（５）のその他の対策ということで、四つの項目を掲げております。私学の更なる特色・魅力作りの推進、県・三市教育委員会・私立中高協会による県内高校への進学促進、その他周知徹底についてまとめてありますが、こちらについても変更なしということによろしいでしょうか。

#### 藤野委員

二つ目のところで県・三市教育委員会・私立中高協会による県内高校への進学促進ということで、先ほどの評価の中ではどなたも話されませんでした。資料４-３の中で県外等への進学の割合が前年度8.5%から8.4%に0.1%減っております。それはその前の年から見ても、一時期は9.5%の生徒が県外を選択していましたが、ここまで減ってきているということがわかります。

県内高校への促進ということについて、定時制・通信制への進学者が多いということと、県外への進学者が多いということが私は神奈川の大きな課題だと思っていますので、ここが前年度から減少する傾向になっているということは高く評価できることだと考えています。

県内高校への進学促進ということで、様々な活動の中でその方向で動いているということも高く評価してよいと思っています。

#### 高木委員

現実には六千人近い県外への進学者がいますから、引き続き努力していかなければならないという思いは持っております。

#### 座長（八尋委員）

確かにこれまでかなりの人数が県外に進学していました。今回の結果を見ますと、前年度に比べて人数が減っているということが成果として出ているのではと思います。そういったことを受けまして、表現としては県内高校への進学促進ができていると捉えれば、例えば「更なる進学促進」であるとか、そういった表現もあろうかと思えます。

#### 高木委員

そうですね、これは私学だけの問題ではないですから、神奈川の子どもの教育は神奈川でということできたいと考えています。

#### 座長（八尋委員）

それでは「県内高校への更なる進学促進」といった形で修正をさせていただきます。

最後になりますけれども「４ 昼間の時間帯で学ぶ進学率（昼間進学率）の活用」ということで、こちらの数字については先ほど報告がございましたけれども、こちらも全日制の進

学率と併せて活用していくということによろしいでしょうか。

#### 西村委員

毎年話題になりますが、この数字は昨年度に比べると0.1%下がっていますが、下げ幅でいえば全日制進学率の減少の0.2%よりは数字として少なくなっています。先ほど飯村委員が話されていたように昼間定時制へ進学した生徒が多いと感じますし、広域通信制の話でも出ましたが、子どもたちの需要といいますか、学び方というのが変わってきたということについて、我々は考えていかなければいけないのではないかと感じます。それがなぜそのようなってきているのかというところまで分析していけば、子どもたちが全日制を望むような形に繋がるのではないのでしょうか。

ぜひ、全日制の進学率と併せて、昼間進学率についても利用してもらえればと思います。この活用についてはこれからも大事にしていかなければならないと感じます。

#### 座長（八尋委員）

ありがとうございます。西村委員から発言がありましたけれども、そのような意味も含めてこういった形で記載していくということによろしいでしょうか。

全委員 異議なし。

#### 座長（八尋委員）

最後の5ページにつきましては全体のまとめでございますけれども、平成30年度の考え方の数字につきましては今後協議していくこととなりますが、それ以外の文言等について何か御意見がありましたらお願いします。

全委員 異議なし。

#### 座長（八尋委員）

定員計画の策定ということで資料3の確認をさせていただきました。それぞれの立場から様々な御意見が出されたと思います。平成30年度の定員計画につきましては、昨年に続きまして公私が自らの責任において実現を目指す定員目標を設定することによりまして、策定していくといった考え方で公私の意見が一致したと思います。そういった部分の確認を今回させていただきました。しかしながら今日が初めての会議でこの場で数字を見ただけでありますので、具体的な定員の目標につきましては、公私が具体的な目標の数値を提示して具体的な合意文書を取りまとめていくこととなります。一度今日の結果について持ち帰っていただいて、また精査・検討していただいた上で目標数値を提示していくといった形にさせていただきたいと思います。いかがでしょうか。

全委員 意義なし。

## 座長（八尋委員）

ありがとうございます。公私が協調してそれぞれがどこまで神奈川の子どもたちを受け止めていけるのかという、そういった定員の目標を検討いただき、県内の公立中学校卒業予定者の定員目標を持って、もう一度お集まりいただいて協議をしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

それでは大変恐縮ではございますが、次回の協議会につきましては、例年9月に設置者会議を開きまして、そこでの合意を目指しているわけでありましてけれども、8月の下旬までに会議を開催させていただきたいと考えております。詳しい日程につきましては、事務局を通じまして調整・連絡させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

なお、先ほども申し上げましたが、合意文書中の文言の修正を要する部分につきましては、本日の皆様方からの意見を踏まえまして事務局で修正の作成をさせていただきますので、これにつきましては次回の協議会において提示させていただきたいと思っております。その場で公立・私立の委員の皆様には内容の御確認をしていただきたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

全委員 異議なし。

## 座長（八尋委員）

ありがとうございます。それでは議題1につきましては以上で協議を終了させていただきたいと思っております。

続きまして、その他でございますけれども、まず事務局の方から何かあるでしょうか。

## 事務局

特にございません。今後の日程につきましてはまた改めて通知を送付させていただきますのでよろしくお願いいたします。

## 座長（八尋委員）

委員の皆様からは何かあるでしょうか、よろしいでしょうか。ないようでしたら、以上で本日の日程は全て終了させていただきます。本日は大変お忙しい中、委員、オブザーバーの皆様、御出席いただきましてありがとうございます。以上を持ちまして第2回の協議会を終了させていただきます。お疲れ様でございました。